

企画展示室 春季特別展

# 明智光秀と越前

— 雌 伏 の と き —

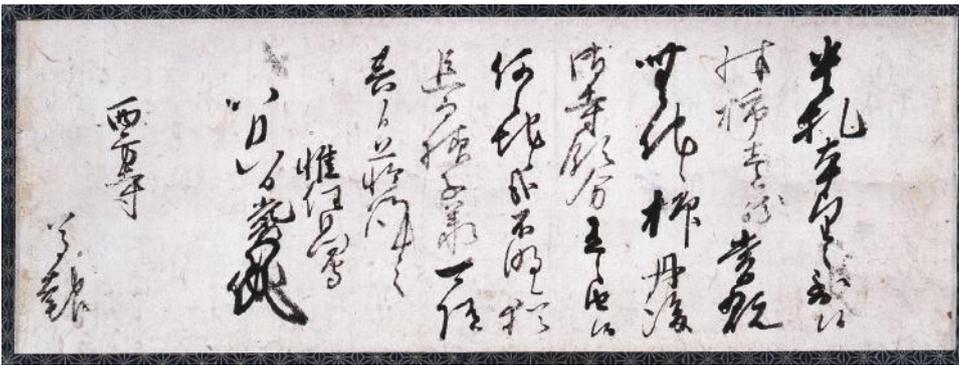
- 主催 福井市立郷土歴史博物館
- 会場 企画展示室
- 会期 令和2年3月20日(金・祝)～  
令和2年5月6日(水・振休)
- 休館日 4月13日(月)

## プロローグ ～明智光秀～

明智光秀は、本能寺の変で主君の織田信長を討った天下の謀反人として知られる武将です。そんな光秀ですが、変を起こした理由を始め、出自が不明なこと等、謎が多い武将でもあります。

また、経歴の初期に朝倉義景のもとにいたと考えられていることや、信長軍の一員として度々越前に侵攻するなど、越前ゆかりの人でもあります。

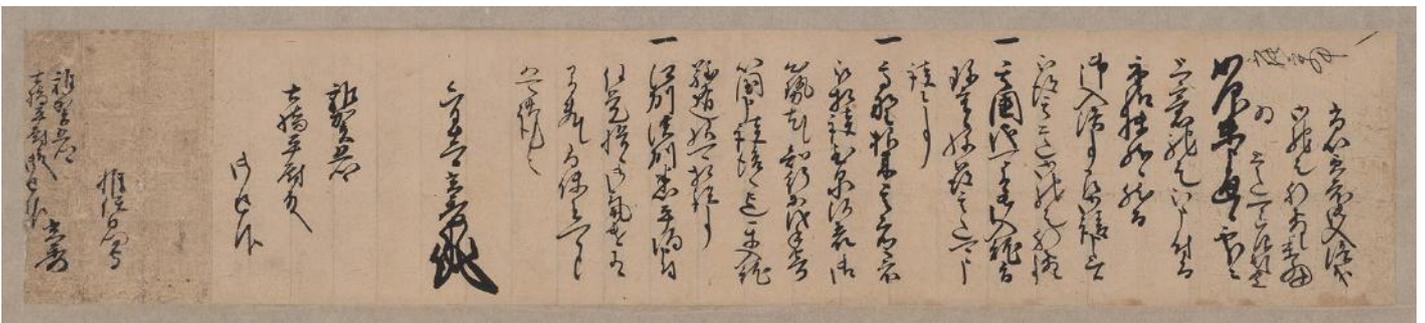
本展では、光秀の屋敷跡と伝わる場所など、関わりのある場所の紹介や、本能寺の変の後、翻弄されながら越前の領主になった武将たちを紹介し、光秀と越前の関係に迫ります。



明智光秀書状 西方寺宛 8月8日付 滋賀県立安土城考古博物館蔵



紅糸威本小札二枚胴具足  
(伝明智光秀所用)  
井伊美術館寄託



明智光秀書状 土橋平尉宛(天正10年)6月12日付 美濃加茂市民ミュージアム蔵

## 第1章 明智光秀の出自 ～光秀と朝倉氏～

織田信長に仕えるまでの光秀の出自については様々な説がありますが、残された史料が少なく明らかなではありません。一説では、美濃守護土岐氏の一族である明智氏に生まれるも、その後起こった美濃の内乱に巻き込まれて破れ、越前の朝倉氏のもとに逃れてきたとされています。越前に来た理由についても明らかなではありませんが、越前と美濃は隣国であり古くから政治・経済の面で深いつながりがあったことが可能性として考えられます。



太刀 無銘 (伝朝倉貞景・義景所用) 心月寺蔵、当館寄託



朝倉義景像 心月寺蔵、当館寄託



一乗谷朝倉氏遺跡出土瀬戸・美濃焼 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館蔵

## 第2章 越前での光秀 ～雌伏のとき～

越前には称念寺（坂井市丸岡町）と東大味町（福井市）に光秀が住んでいたという伝承が残る場所があります。称念寺では門前に住み、寺子屋を開いていたとの伝承、東大味町には織田信長による越前攻めの際、かつて暮らした村を戦禍から守ったとの伝承が残ります。そのため、両地域では光秀は昔から慕われる存在でした。

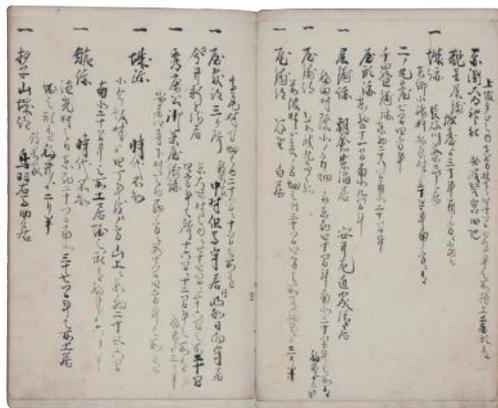
後の活躍をみると、越前にいたとされる時期は、“雌伏のとき”といって良いでしょう。



称念寺



明智神社



越前国古城跡并館屋敷蹟（写本） 当館蔵



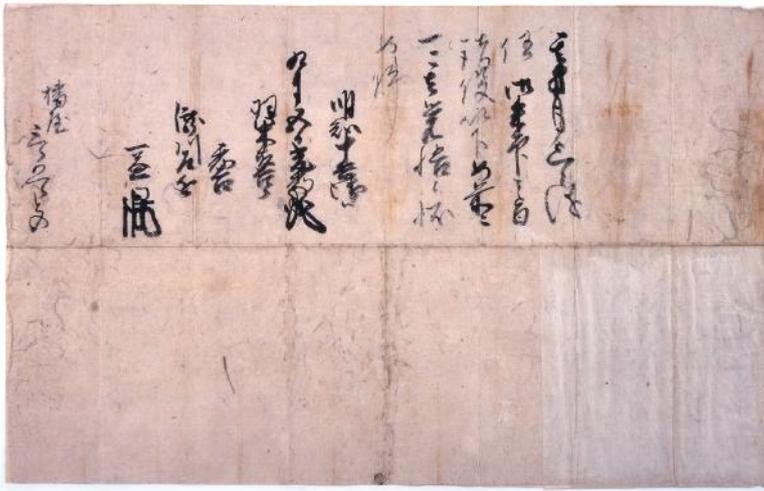
御所・安養寺跡

# 第3章 織田信長の家臣として ～飛躍のとき～

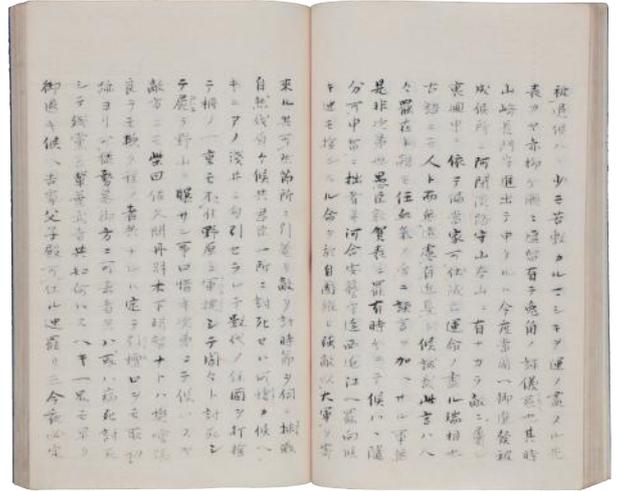
朝倉氏のもとを去り、しばらく足利義昭と織田信長に両属したあと、2人の関係が悪化すると、光秀は信長の家臣となります。光秀の活躍は目覚しく、京の代官を始め近江や丹波に領地を与えられるなど、新参者ながら、短期間のうちに重臣クラスにまで登りつめました。

信長のもとでは諸国統一のため、各地を転戦しましたが、その中には、かつて暮らした越前の平定も含まれていました。この信長と光秀の関係はもとを辿れば、光秀が越前にいたことから始まるのであり、それがなければ本能寺の変も起こらなかったかもしれません。

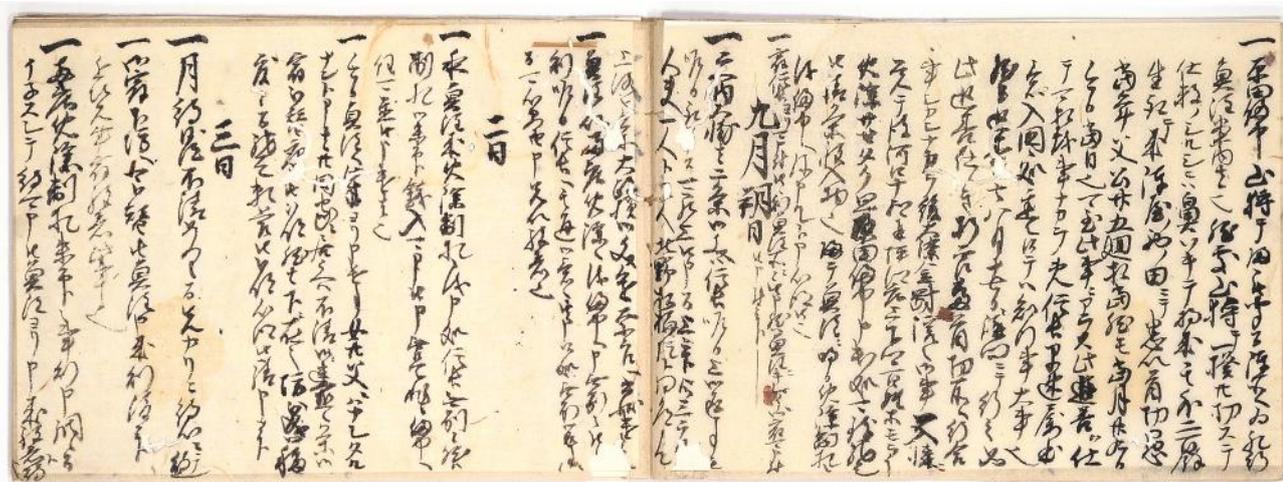
ここ越前は、彼の活躍が始まり、大きな歴史が動きはじめた場所といえるでしょう。



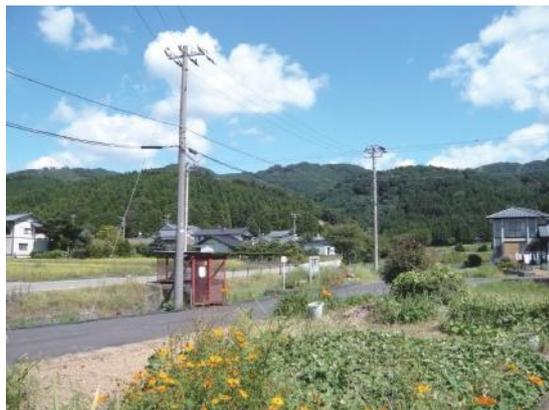
龍川一益・羽柴秀吉・明智光秀連署状 福井県立歴史博物館蔵



朝倉記 当館蔵



越前国相越記 個人蔵、当館寄託



豊原寺跡遠景



豊原寺跡

## 第4章 本能寺の変 ～そして、最期のとき～

天正10（1582）年は信長の統一事業が飛躍的に進展した年でした。最大の脅威であった武田氏を滅ぼし、軍を毛利氏などの残る勢力に振り向けることができるようになり、諸国統一は時間の問題となっていました。しかし、天正5（1577）年には松永久秀が、翌年には荒木村重といった信頼していた家臣が反旗を翻すなど、盤石と思われた信長政権にも、ほころびが見え始めていました。

そのような状況の中、信長のもとに中国地方の毛利氏攻めで苦戦している羽柴秀吉から援軍要請があり、彼自ら軍を率いて援軍に向かうことを決定します。光秀も、その援軍に加わるよう命を受け、準備のため5月下旬に領地の亀山に向かいました。しかし、6月2日、突如自軍の行き先を信長の宿所である本能寺に変え、主君を自害に追い込むのでした。



国史画帖大和桜（本能寺の変） 当館蔵



国史画帖大和桜（明智光秀小栗栖之図） 当館蔵

## エピローグ 光秀に翻弄された男たち ～越前ゆかりの武将～

織田信長と明智光秀の家臣だった武将の中には、本能寺の変後、越前国内の領主になるなど、越前に深く関わった人たちがいます。彼らの本能寺の変直後の状況や、その後の動向を紹介します。



柴田勝家像  
柴田勝次郎氏蔵、当館寄託



丹羽長秀画像  
東京大学史料編纂所蔵模写



堀秀政像 長慶寺蔵



長谷川秀一像 永昌寺蔵

展示解説シート No.129  
令和2年3月20日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1  
電話 (0776) 21-0489 FAX (0776) 21-1489  
担当 白嶋 祐司

印刷 宮本印刷

次回の展示

企画展示室 夏季特別陳列「福井藩と城下町」 令和2年7月23日(木)～8月30日(日)